

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	電子・生産システム工学特別演習
科目基礎情報					
科目番号	0036	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子・生産システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	通年	週時間数	前期:2 後期:2		
教科書/教材					
担当教員	工藤 彰洋				
到達目標					
<p>外国語による専門演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 英語による演習を受講し、内容を正しく理解することができる。 2. エンジニアリングデザイン教育に関する実習 3. 解決すべき課題を認識し、専門知識と技術を生かして解決案を考えることができる。 4. 制約条件を考慮したデザインあるいは解決策をわかりやすく提示できる。 5. デザイン結果あるいは解決策をわかりやすく提示できる。 6. 構想したものを図、文章、式、プログラムなどで表現できる。 7. 継続的に計画し、実施できる。 8. 問題解決のための実施計画を実行し、データを正確に収集して適切な方法により解析できる。 9. 複数の専門領域に関する知識と技術を用いて境界領域を認識できる。 					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	英語による演習を受講し、内容を十分に正しく理解することができる。	英語による演習を受講し、内容を正しく理解することができる。	英語による演習を受講することによって、内容を理解することができない。		
評価項目2	解決すべき課題を認識し、専門知識と技術を十分に生かして解決案を考えることができる。	解決すべき課題を認識し、専門知識と技術を生かして解決案を考えることができる。	解決すべき課題を認識することができ、専門知識と技術を生かした解決案を考えることができない。		
評価項目3	制約条件を考慮したデザインあるいは解決策を十分わかりやすく提示できる。	制約条件を考慮したデザインあるいは解決策をわかりやすく提示できる。	制約条件を考慮したデザインあるいは解決策を提示できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	<p>本演習は、以下の2つから構成する演習により、実践的な能力を養うことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人講師の英語による専門演習 (前期) 2. エンジニアリングデザイン教育に関する演習 (後期) <p>この科目は企業で誘電体の開発・評価を担当していた教員が、その経験を活かし、誘電体の評価及びそれに必要な基礎知識等について講義形式で授業を行うものである。</p>				
授業の進め方・方法	<p>本演習は、以下の2つから構成する演習により、実践的な能力を養うことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人講師の英語による専門演習 (前期) 2. エンジニアリングデザイン教育に関する演習 (後期) <p>グローバル社会に向けた実践的能力および語学力の向上を目指す。</p> <p>両専攻全員を混合してグループを構成する。製品を製造するために必要な事項について調査し、課題に関しては解決案を立案する。企画書・製造計画書の作成、試作、評価、装置の設計、製造、成果発表を行う。</p> <p>評価法については以下の通りである。</p> <p>前期は、事前事後学習による課題や筆記試験などを合計100点満点で評価する。</p> <p>後期は企画書、製造計画書、設計図、作品 (製品、装置)、発表、最終報告書、取組によりグループと個人を100点満点で評価する。個人の総合評価点は評価の観点2.の各項目評価点の平均とする。</p> <p>前期と後期の平均点を最終評価とする。</p>				
注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外国人講師の英語による専門演習 (前期) 外国人講師による英語を主とした演習のため事前に指示のある用具の他、辞書など英語 (含、英会話) に必要となるものを持参すること。 2. エンジニアリングデザイン教育に関する演習 (後期) エンジニアリングデザイン教育に関する実習を実施するので、他専攻の学生との連携や提出物などの指示に注意すること。 				
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。	
		2週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。	
		3週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。	
		4週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。	
		5週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。	
		6週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。	

2ndQ	7週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	8週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	9週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	10週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	11週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	12週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	13週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	14週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	15週	外国語による専門演習	英語による演習を受けることにより、英語を通じて新技術の理解ができる。また、情報収集や提案などを行うための手法を身につけることができる。		
	16週				
	後期	3rdQ	1週	ガイダンス	解決すべき課題の内容を理解し、企画立案することができる。
			2週	企画書・発行計画書作成	解決すべき課題の内容を理解し、企画立案することができる。
			3週	企画書・発行計画書作成	解決すべき課題の内容を理解し、企画立案することができる。
			4週	企画書・発行計画書発表会	デザイン結果あるいは解決策をわかりやすく提示することができる。 構想したものを図、文章、式、プログラムなどで表現することができる。
			5週	企画書・発行計画書作成	解決すべき課題の内容を理解し、企画立案することができる。
			6週	酢酸発酵	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。
7週			酢酸発酵	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。	
8週			酢酸発酵	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。	
4thQ		9週	試作品評価	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。	
		10週	企画書・発行計画書発表会	デザイン結果あるいは解決策をわかりやすく提示することができる。 構想したものを図、文章、式、プログラムなどで表現することができる。	
		11週	酢酸発酵	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。	
		12週	酢酸発酵	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。	
		13週	試作品評価	制約条件を考慮したデザイン、解決方法を考えることができる。 継続的に計画し、実施することができる。	
		14週	報告会資料作成	デザイン結果あるいは解決策をわかりやすく提示することができる。 構想したものを図、文章、式、プログラムなどで表現することができる。	
		15週	報告会	デザイン結果あるいは解決策をわかりやすく提示することができる。 構想したものを図、文章、式、プログラムなどで表現することができる。	
		16週			

評価割合			
	前期	後期	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	0	0	0
専門的能力	50	50	100
分野横断的能力	0	0	0